

【7月の気象】

- ▷ 月の前半は、梅雨の末期にあたり、前線の活動が活発化して大雨となることがあります。
- ▷ 梅雨期に台風が近づくと、台風が運んでくる暖かく湿った空気により梅雨前線の活動がさらに活発化するため、大雨災害への警戒が特に必要となります。
- ▷ 月の後半は、梅雨明けの時期です。四国地方における梅雨明けの平年値は7月18日ごろです。
- ▷ 梅雨明け後は太平洋高気圧に覆われ、晴れて暑い日が続くことがありますので、農作物の管理や熱中症に注意が必要です。気象台では、当日または翌日の最高気温が35℃以上になることが予想される場合は「高温注意情報」を発表し、熱中症への注意を呼びかけます。

高温注意情報の発表状況はこちらから確認できます → <https://www.data.jma.go.jp/fcd/yoho/data/kouon/>

【気象用語】「警戒レベル」とは

5月29日から、愛媛県の各市町では「警戒レベル」が導入されています。この「警戒レベル」は、住民が「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自らの判断で避難行動をとるため、住民がとるべき行動を直感的に理解しやすいよう、市町や気象台などが発する防災情報を5段階のレベルで明示したものです。



警戒レベルを有効に活用するには、土砂災害、河川の氾濫など、お住まいの地域で発生するおそれのある自然災害と避難経路や避難場所について、県市町の防災マップ、土砂災害危険箇所マップ、洪水想定マップ等で日頃から把握しておくことが重要です。

警戒レベル 5
すでに災害が発生
命を守る最善の行動

警戒レベル 4
全員避難

警戒レベル 3
高齢者等は避難

警戒レベル 2
避難行動の確認

警戒レベル 1

土砂災害の情報: 大雨注意報, 土砂災害警戒情報, 大雨特別警戒報

川の洪水の情報: (重信川・肱川) 氾濫注意情報, 洪水注意報, 洪水警戒情報, 氾濫警戒情報, 氾濫危険情報, 氾濫発生情報

危険度分布: 注意, 警戒(赤), 非常に危険(うす紫), 極めて危険

Illustration: A family with a person in a wheelchair and a dog, being urged to evacuate quickly by a person in a yellow raincoat.

上図は、市町から発令される避難情報と気象台などが発表する大雨に関する防災気象情報の関係を示したものです。災害が想定されている区域等では、警戒レベル3以上が発令されたら速やかに避難行動をとってください。警戒レベル3以上に相当する防災気象情報が発表された際には、避難勧告等が発令されていなくても危険度分布や河川の水位情報等を確認し、積極的に自ら避難の判断をしてください。

詳細についてはこちらをご確認ください → <https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/bosai/alertlevel.html>

※令和2年5月29日内閣府発表による大雨警戒レベルの配色変更等に伴い、図を再編集しました。